

所 報

I. 所員の移動についての報告

2年間にわたり教育研究所長をつとめられた中野照海教授がその務めを退かれ、替わって千葉卓弘教授が教育研究所長の任に着いた。1954年より長年にわたりICUで教育哲学の教育と研究に携わってこられた讃岐和家教授が、1992年3月をもって退職された。教育心理学研究室の藤永保教授と教育哲学研究室の町田健一助教授が、新たに教育研究所に所員として加わった。

II. 研究所活動報告（1991年9月～1992年8月）

1. 講演会

Dr. Robert A. Reiser (Professor and Head of Department of Educational Research at Florida State University)

演題：教師は授業をいかに計画するか (How teachers go about planning their instruction) 1992年5月20日

2. 研 究 員

(1) 研究員 I (Research Fellows)

- 1) Akivaga, Symonds Kichamu, ナイロビ大学上級講師, M.Sc., 国籍：ケニア共和国, 住所：東京都調布市, 研究題目：日本の高等教育システム, 研究期間：1991年6月3日～1992年2月29日.
- 2) 鬼頭當子, MK図書館研究所, 国際基督教大学教養学部教育学科非常勤講師, 元国際基督教大学図書館長, 住所：東京都武蔵野市, 研究題目：国際基督教大学大学院修士論文に掲載された参考文献の分析, 研究期間：1992年4月1日～1993年3月31日.
- 3) 道又 爾, 明治学院大学助教授, Ph.D., 住所：神奈川県逗子市, 研究題目：大

脳半球機能に関する実験心理学的研究, 研究期間: 1992年4月1日-1993年3月31日.

- 4) Ng'wandu, Pius Yasebashi, Ph.D., タンザニア連合共和国駐日大使, 住所: 東京都世田谷区, 研究題目: Education and work: Japanese educational policy reforms and their relevancy for Africa, 研究期間: 1992年4月1日-1993年3月31日.
- 5) Rasonabe, Marietta, フィリピンナショナルスクール・盲人ガイダンスカウンセラー, M.A., 国籍: フィリピン, 住所: 愛知県刈谷市, 研究題目: 日本における目の見えない子供たちの個性と性格, 研究期間: 1991年4月1日-1992年3月31日.
- 6) 佐藤史朗, 跡見学園女子大学教授, 住所: 東京都豊島区, 研究題目: 英語教育における cloze procedure を用いたテストについて, 研究期間: 1991年4月1日-1992年3月31日.
- 7) Solodow, Robert, Ph.D., 国籍: 米国, 住所: 東京都港区, 研究題目: A study of time-limited dynamic psychotherapy of 30 to 35 individuals under stress, living in the foreign community in Tokyo, using the Horowitz configuration analysis method to quickly define the most useful treatment technique., 研究期間: 1992年4月26日-1993年4月25日.

(2) 研究員II (Research Associates)

- 1) 原和子, 元東洋英和女学院教諭, 住所: 東京都港区, 研究題目: 海外帰国子女の異文化体験の意味とその影響, 研究期間: 1991年4月1日-1992年3月31日.
- 2) 服部純子, 国際基督教大学修士号(教育学), 住所: 東京都三鷹市, 研究題目: 南紀三地域における伝統的職業文化と住民意識, 研究期間: 1991年4月1日-1992年3月31日.
- 3) 塚本美恵子, M.A., (コロンビア大学), 住所: 埼玉県入間市, 研究題目: Adjustment for new environment, 研究期間: 1991年4月1日-1992年3月31日.
- 4) 足立美絵, 国際基督教大学教育学研究科博士前期課程修了, 住所: 神奈川県横浜市, 研究題目: 協力を必要とする2人ゲーム遊びにおける遊び方略, 研究期間: 1992年9月1日-1993年3月31日.

3. 助 手

(1) 非常勤助手 (Part-time Assistants)

- 1) 川津茂生, M.S., (コーネル大学), 住所: 千葉県船橋市, 1992年4月1日-1993

- 年3月31日（前年度より継続）。
- 2）保坂敏子，国際基督教大学修士号，住所：東京都大田区，期間：1992年4月1日
 -1992年6月31日（前年度より継続）。

研究室活動報告（1991年9月～1992年8月）

〈教育哲学研究室〉

1. 人の動き

千葉果弘教授 1991年9月1日着任。町田健一助教授 1992年4月1日着任。影山
 礼子副手，大川洋副手 1992年3月退任。

2. 研究活動

（1）講演会

- 1991年9月28日：増渕幸男氏（東京電気大学教授）
 「ヤスパースの教育哲学－実存理性の視点から－」
- 1991年1月18日：本吉修二氏（白根改善学校校長）
 「子供達の『善さ』を信じて－白根改善学校15年の歩み－」
- 1992年5月30日：川崎郁夫氏（日本私学教育研究所研究員）
 「生徒急減期における学校経営」

（2）研究会・その他

- 1991年9月16日 ： 大学院教育哲学研究室研究会（修士論文中間発表を中心に）
- 1992年1月 ： I C U教育哲学研究会紀要 第2号発刊
- 1992年2月5日 ： 教育学科教育学専修生卒業論文・大学院教育哲学専修生修士論文発表会
- 1992年2月19日 ： 大学院教育哲学研究室研究会（修士論文の中間発表を中心に）
- 1992年4月11～12日： 大学院教育哲学研究室春期研究合宿（新入生の研究計画・修士論文の中間発表を中心に，代々木国立青少年オリンピックセンターにて）
- 1992年8月3～5日： 第15回I C U教育セミナー（八王子大学セミナーハウスにて，

卒業生教員，学部生，及び I C U 教員が参加)

ベンジャミン C. デューク 教授

Research Activities:

- ① Initiated a research study of the Attitudes of the Future Leaders of Asia Toward Japan's Role in Asia in the 21st Century — in China, Philippines, Malaysia, Thailand, and Indonesia

Publication:

Book:

- ① EDUCATION AND LEADERSHIP FOR THE 21ST CENTURY: JAPAN, AMERICA, AND BRITAIN, Praeger Press, N.Y., N.Y., 1991

Professional Activities:

- ① English Editor, Japan Journal of Education

千葉 杲 弘 教授

研究活動

- ① アジアに対する教育分野での国際協力に関する研究活動
 - ・ 「Regional Symposium on UNESCO PROAP Action Plan for 1992-1993 Biennium」 Bangkok, Thailand 1992.2.20-25. at special invitation of UNESCO
 - ・ 「Thirteenth Regional Consultation Meeting on Asia and the Pacific Programme of Educational Innovation for Development(APEID)」 Jomtien, Thailand 1992.6.22-26. Japanese official participation
 - ・ 「Conference on Information systems and Policy Analysis」, Presentation of a paper on "Japanese experience of policy Formulation and Planning in Education" Jokjakarta, Indonesia 1992.6.29-7.3.
 - ・ 「Third Meeting for Regional Coordination of Asia and the Pacific Programme of Education for All(APPEAL)」 Bangkok, Thailand 1992.7.23-27.
 - ・ 「Consultant for UNV, UNESCO, NFUAJ on project development in education in Cambodia」 Cambodia, 1992.8.12-24.
 - ・ 「Preparatory Meeting of the 6th Regional Conference of Ministers of Education and

those Responsible for Economic Planning in Asia and the Pacific」Thailand, 1992.8.
26.-9.3.

② 東アフリカ地域の教育に関する研究

ジュネーブのIBE図書館及びイギリスのエジンバラ大学アフリカ研究センターより、東アフリカの教育に関する資料を収集した。

論 文

「教育の分野における国際協力の潮流と展望」, 渡辺良『途上国の教育に対する日本の協力・援助に関する基礎的研究』, 平成3年度開発援助研究研究成果報告書, 1992年3月, 60-65頁

講 演

① 「新しい世界秩序の中でのユネスコ活動」

岩手県一関市, 一関ユネスコ協会, 国際理解講座 1992年2月15日

② 「ユネスコに遺して一世界の教育事情とその課題」

秋田県能代市, 能代文化学院, 市民講座 1992年5月16日

そ の 他

日本ユネスコ委員会 国内委員, アペイド・アピール分科会主査

日本国際理解教育学会 理事

日本ユネスコ協会連盟 寺子屋推進委員

立 川 明 準教授

研究活動

アメリカ合衆国の大学における大学院の登場と興隆期における教育制度・教育方法の改革について、及び南北戦争期のセント・ルイスにおけるヘーゲル主義の台頭、とを研究テーマとして資料の収集等を行ってきたが、いまだ論文として発表する段階には至っていない。

学会参加

近代教育思想史研究会及び教育史学会に参加し、後者では一部の司会をつとめた。

著 作

- ① “The Honors Program on Trial: Swarthmore in the 1920s.” *Journal of the Midwest History of Education Society*. XIX, 1991, 130–140.
- ② 「教育と研究」『卒業生の I C U 40年』国際基督教大学同窓会, 1992, 47–72.
- ③ “The Real World of Japanese Education: An Essay Review.” *History of Education Quarterly*. (Spring, 1993) in press, eleven typed pages.

そ の 他

- ① 講演 ・ “Problems and Prospects of Education in Japan.” Philippines, at Manila Pavilion Hotel, on February 17, 1992.
 　・ 「I C U の入学試験の目指すもの」神田駿河台予備校, 1992年8月25日
 　（「I C U ガゼット」1992年9号及び10号に所収）
- ② 日本教育学会 教育学研究 英文校関係

林 昭 道 助教授

研究活動

- ① 近代ヨーロッパ思想史研究
 　　特にE. シュプランガー, ゲーテ。
- ② 近代以降の教育の諸概念の成立の流れを追う。キリスト教思想との比較を含んで。

町 田 健 一 助教授

研究活動

- ① 義務教育レベルにおける私立学校調査：
 - ・ 建学の精神とその取り組みの歴史
 - ・ その他の研究実践
 - ・ 一貫教育の意義とその効果の是非
 - ・ 寮教育の意義とその効果の是非
- ② 教育課程の革新とその実施に関する研究
- ③ 数学教育研究
 - ・ 数学教育の目標論

- ・問題解決学習における言語の役割
- ・コンピューター教育の目的と問題点
- ④ 生徒指導に関する研究
 - ・道徳教育における教育哲学と問題点
 - ・性教育における教育哲学及び教育内容

学会参加

- ① 日本キリスト教教育学会第4回大会（東北学院大学）1992年5月30日
- ② 日本教育学会第51回大会（北海道大学）1992年8月28日～30日

研究論文

- ① Effective use of verbal mediators in mathematical problem-solving processes, in H. Motoaki, J. Misumi, and B. Wilpert (Eds.), Social, Educational and Clinical Psychology, Proceedings of the 22nd International Congress of Applied Psychology Volume 3 (pp.190), Lawrence Erlbaum Associates Ltd., Hove, UK, 1992

その他

- ① 集中講義「教育心理学」 三育学院短期大学 1991, 9, 16～20
- ② 岡山県「人間と性」教育研究協議会 第2回岡山セミナー参加 1991, 12, 25～26.
- ③ 講演「現代に生きる女性」 三育学院短期大学寮主催宗教週 1992, 6, 13.
- ④ I C U教育セミナー 世話人 1992, 4～
- ⑤ 第15回 I C U教育セミナー 参加及び発表
「授業とは何か：教科書指導を通して目指すもの（数学科）」1992, 8, 3～5.

影 山 礼 子 助手

（影山礼子は1992年4月より、国際武道大学一般教育部助教授に転出）

研究活動

- ① 成瀬仁蔵の教育思想の研究を、1992年3月に国際基督教大学博士学位論文として提出以後も、特に、帰一協会（The Association Concordia）、および成瀬の思想のアンビバレントな側面の解明といった点について研究を続けている。
- ② 日本および国際比較の焦点から、高等教育機関における男女平等の風土に関する研究を共同研究している。

研究論文・著書・翻訳

- ① 国際女性学会編『＜女と仕事＞の本』第3巻（分担執筆）勁草書房，1991年12月
- ② 「成瀬仁蔵の教育思想—成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育」
国際基督教大学博士学位論文，1992年3月
- ③ R.R.ラッシュ，D.アレン編著・村松泰子監訳『新しいコミュニケーションとの出会—ジェンダーギャップの橋渡し』（共訳）垣内出版，1992年4月

その他の出版物

- ① 「成瀬先生の教育思想（1）（2）（3）——軽井沢での報告から」
『成瀬先生研究会活動の記録（8）』日本女子大学桜楓会，1992年3月
- ② 「なぜ成瀬先生の研究か？」
『女子大通信』521号，日本女子大学通信教育部，1992年6月
『日本女子大学学園ニュース』117号，日本女子大学，1992年7月
『桜楓新報』491号，日本女子大学桜楓会，1992年7月

研究発表および講演

- ① 1991年10月 「宗教的多元主義の課題—成瀬仁蔵の例から」
キリスト教教育研究会（青山学院大学）
- ② 1992年2月 「成瀬仁蔵の教育思想—成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育」
国際基督教大学アジア文化研究所公開セミナー（国際基督教大学）
- ③ 1992年4月 「なぜ成瀬先生の研究か」
日本女子大学創立記念式典（日本女子大学）
- ④ 1992年5月 「成瀬仁蔵の教育思想」
日本デューイ学会東京地区研究談話会（早稲田大学）
- ⑤ 1992年7月 「近代日本の思想運動—帰一協会の例から」
「家族と倫理」研究会（上広倫理財団）

その他

- ① 国際基督教大学アジア文化研究所リサーチ・フェロー
- ② 国際女性学会庶務係
- ③ 『渋沢研究』編集委員

〈心理学研究室〉

1. 人の動き

(1) 学内人事

1992.3.31. 井上直子, 権藤桂子, 谷野汐里, 野村 学, 足立美絵, 田辺宏樹, 鈴木千尋, 非常勤副手を退任。

1992.4. 1. 藤永 保教授, お茶の水女子大学を退官され, 本学に就任。

原 一雄教授, 研究休暇を終え帰任。

大井直子, 西村 馨, 滝口恵美, 高野橋嘉絵, 非常勤副手に就任。

巖岩秀章, 岡林秀樹, 荻原美文, 前年度に引き続き非常勤副手に再任。

(2) 非常勤講師

1991 秋学期 苦米地憲昭 (ICUカウンセリングセンター主任)

「EPS 341 精神保健」

中村 陽吉 (学習院大学教授)

「EPS 370 対人関係の心理学」

池 田 央 (立教大学教授)

「EPS 453 教育心理学演習Ⅱ」

平木 典子 (日本女子大学教授)

「EPS 561 ガイダンス・カウンセリング研究Ⅱ」

1991 冬学期 永田 良昭 (学習院大学教授)

「EPS 170 社会心理学」

新田 倫義 (東京女子大学教授)

「EPS 210 心理学概説」

苦米地憲昭 (ICUカウンセリングセンター主任)

「EPS 320 思春期・青年期心理学」

鳥居 修晃 (聖心女子大学教授)

「EPS 352 知覚の心理学」

榎 本 稔 (東京工業大学保健管理センター)

「EPS 465 教育心理学研究Ⅴ」

1992 春学期 池 田 央 (立教大学教授)

「EPS 315 心理統計Ⅱ」

平木 典子（日本女子大学教授）

「EPS 461 ガイダンス・カウンセリング研究Ⅰ」

2. 研究活動

（1）心理学談話会・講演会

1991.11.12 藤永 保 お茶の水女子大学教授

「トゲウオの本能行動と発達研究」

於 シーベリー・チャペル 出席者18名

（2）論文発表会

1991.10. 8 卒論中間発表会（1）

10.15 卒論中間発表会（2）

10.22 卒論中間発表会（3）

1992. 1.21 修士論文発表会 発表者 6 名

2. 7 卒論発表会 発表者19名

2.18 博士論文計画書発表会 発表者：福田憲明

5.26 卒論計画書発表会（1）

6. 2 卒論計画書発表会（2）

6. 3 6月卒業生卒論発表会（発表者：黄 尚利）

修論計画書発表会（発表者：萩原美文）

（3）心理学サマー・セミナー

1992. 7. 7～9（2泊3日）「それゆけ！サイロロジー」

於 八王子大学セミナーハウス

参加者 教員 6 名，院生・学部生50名

（実行委員長：滝口恵美，アドヴァイザー：向井敦子）

（4）日本集団精神療法学会

1992. 4.18～19 於 本学本館，DMH，食堂

参加者 約300名

（大会会長：小谷英文，事務局長：裴岩秀章）

3. その他

1992. 2.28 非常勤講師慰労会 於 ビエニクレ

1992. 4.24 藤永保教授歓迎昼食会 於 ILC会議室

原 一 雄 教授

研究活動

- ① 神経心理学的研究： a) 脳波における大脳半球の機能的非対称性
b) カフェインの学習に及ぼす精神薬理的效果
- ② 教育心理学的研究： a) 大学生の価値観
b) 警察機関における少年相談
- ③ 高等教育に関する研究： a) 大学教職員の資質開発 (FD/SD) プログラム
b) 大学の総合的自己点検・評価

学会発表等

- ① 「大学生の価値観 (1) 人生観・宗教倫理観・政治経済観研究の一方法論」
日本心理学会第55回大会 (於 東北大学) 1991.10.31
- ② 「大脳皮質損傷実験の役割」(シンポジウム：感情の生理心理学的測定)
日本生理心理学会第10回学術大会 (於 同志社大学) 1992.5.22
- ③ 「大学の自己点検・評価一構成員間の比較」
一般教育学会第14回大会 (於 九州国際大学) 1992.6.6
- ④ 「教師自身による自己診断」(研究交流部会Ⅱ 教師による授業評価)
一般教育学会第14回大会 (於 九州国際大学) 1992.6.7
- ⑤ 「編入制度の基本原則と運用上の障壁」(シンポジウムⅡ 4年制大学の中途編入制度と短大・専門学校単位の認定について)
一般教育学会第14回大会 (於 九州国際大学) 1992.6.7.
- ⑥ 「指定討論：動物のことばとは何か」(シンポジウム：トリのことば・サルのことば・ヒトのことば)
日本動物心理学会第52回大会 (於 安田生命教育センター) 1992.7.30
- ⑦ “Changes in College Students' Values in Japan.” The Second Afro-Asian Psychological Conference, Beijing University, Beijing. 1992.8.25

著 作

- ①「学生による授業評価—欧米の実情と教員の自己評価との関連において」日本私立大学連盟『大学時報』40(220), 70-77 1991.9
- ②「一般教育科目受講態度の要因分析」『一般教育学会誌』13(2), 67-73 1991.11
- ③「第4章 試験で何を測定し、どう評価するか」大学セミナー・ハウスFDプログラム小委員会編『FDハンドブック』21-27 1992.1
- ④「授業計画と授業評価」民主教育協会『IDE：現代の高等教育』No.332, 5-13 1992.2
- ⑤「ICUにおける大学生の価値観研究」（大井直子・岡林秀樹共著）国際基督教大学アジア文化研究所『アジア文化研究 別冊3』91-100 1992.3

そ の 他

- ①（座談会）「大学再建は研究・教育業績の公開，評価から 3,4,5回」『週刊教育PRO』No.33, 16-20 1991.9.3; No.34, 16-20 1991.9.10; No.35, 16-19 1991.9.17
- ②（論評）「実践的研究への相談窓口を求む」広島大学・大学教育研究センター『コリーグ』(No.20) 32 1991.9
- ③（講演記録）「大学の活性化とスタッフ・ディベロップメント」日本私立大学連盟『平成3年度財務・人事担当理事者会議報告書』70-91 1991.11
- ④（講演）「試験で何を測定し、どう評価するか」（パネルⅠ）大学セミナー・ハウス第3回大学教員研修プログラム 1992.1.18
- ⑤（書評）「和光大学・大学入門期教育の実践的研究グループ著『大学の授業研究のために—和光大学の場合』」広島大学・大学教育研究センター『大学論集』（第21集）376-378 1992.3
- ⑥（随筆）「新しい地図」たばこ総合研究センター『TASC MONTHLY No.198』3 1992.4
- ⑦（講演）「ICUを人間ドックに入れてみましょう」国際基督教大学教職員共助会研修会（於 千葉県天津小湊）1992.7.2
- ⑧ 学会役職等
 - ・日本学術会議心理学研究連絡委員会委員
 - ・日本心理学会，英文アブストラクト校閲委員
 - ・日本基礎心理学会，常任運営委員，『基礎心理学研究』誌常任編集委員
 - ・日本生理心理学会，常任運営委員
 - ・一般教育学会，常任理事，『一般教育学会誌』編集委員長

- ・大学セミナー・ハウス大学教員懇談会FDプログラム小委員会委員
 - ・日本私立大学連盟研修企画委員会副委員長
- ⑨ 研究助成金
- ・文部省平成4年度科学研究費助成金（一般C 課題番号 04610158）『『大学の自己点検・評価』の実践的試行：汎用多段式評定表及び実施用マニュアルの作成』（研究代表者）
 - ・（財）社会安全研究財団／警察庁科学警察研究所「少年相談の効果促進法に関する調査研究」（研究代表者・カウンセリング研究会委員長）

藤 永 保 教授

研究活動

「東アジアにおける母子関係の比較文化的研究」のため1992・8月渡韓，韓国共同研究者との打合わせ及び予備調査。

学会発表・参加

- 1991・10月 日本言語学会103回大会招待講演
「養育放棄と言語遅滞」
- 1992・3月 日本発達心理学会第3回大会参加
- 1992・8月 “現代社会と子どもの発達” 研究会第3回大会講演「東西の子ども親と発達研究」
- 1992・9月 日本心理学会第56回大会参加

著作活動

- 編著 1992・3月 『現代の発達心理学』 有斐閣
- 論文 1991・12月 「数学的英才児の課題解決」(X, XI, XII)『発達研究』vol.7 pp.29-40, 41-52, 53-64

栗 山 容 子 准教授

研究活動

- ① 幼児・児童期における協同的行動の発達の検討

前年度に引き続き、2人ゲーム遊びにおける遊び方略の発達を言語的、非言語的相互作用の分析により検討している。

② ハイ・リスク児の認知, 言語, 情緒, 社会性の縦断的観察

ハイ・リスク児の認知・言語発達とこれに関連する子どもの気質、及び母親との相互作用を縦断的に追跡調査・観察を引き続き行なっている。対照群としての正常児の観察も同時に実施している。

学会発表

- ① 「教育実習生の教授スキルの評価」 日本教育心理学会第33回総会 1991.9.21～23
(於 上越教育大学)
- ② 「2-4歳児の2人場面における象徴遊びの発達(6): 象徴遊びにおける出来事
事象の発達過程」 同上(星三和子, 蓮見元子と共同発表)
- ③ 「母親の子どもに対する意識・感情と人格的特徴, 対人関係との関連」 日本心理学
会第55回大会 1991.10.29～31 (於 東北大学)(仙台国際センター)
- ④ 「協力を必要とする2人ゲーム遊びにおける遊び方略の発達の検討(1)(2)」 日
本発達心理学会第3回大会 1992.3.27～29 (於 兵庫教育大学)(権藤桂子, 荻
原美文, 足立実絵と共同発表)
- ⑤ “Cross Cultural Studies with Pictorial Materials Assessing Children’s Anxieties: The
Japanese Experience” (E. Halpern, 白井常, 大竹信子と共同発表). 50th Annual
Convention of International Council of Psychologists, Amsterdam, The Nether-
lands, July 14-18, 1992.

論文・著作

- ① 「認知課題における親の働きかけ方略の国際比較」 発達心理学ハンドブック68
章: 資料分析の実際 東洋 他編 福村出版 1992. p.1317-1321.
- ② 「母親の子どもに対する意識・感情と対人関係の認知, 人格的特徴との関連」 国
際基督教大学学報 I-A 教育研究 34, 1992. p.33-50. (井尻多希子, 出井まり,
河津真子と共同執筆)
- ③ 「学習者自身による客観テストの作成と評価の試み」 教育学論説資料 第4号
北辰・論説資料保存会(再収録) 1991

その他

- ① 「国際基督教大学教養学部入学試験研究報告書 I. II. 分析資料: 資料及び項目分
析結果」 1992年度

- ② 講演「成績上位層への効果的指導方法」 東北地区神学情報交換会 於仙台 1992.
2.29

小 谷 英 文 準教授

研究活動

① 精神療法技法

- 1) 個人精神療法 2) 集団精神療法 3) コンバインドセラピー 4) インテンシヴセラピー, 等各種治療的介入法の検討, 開発と技法構成のシステム論的研究

② 難治事例の心理力動理論

- 1) 性格障害の治療的要因 2) 精神分裂病の適応機制 3) シゾイドプロセスの力動的解明と治療理論 3) 女性のエディプスコンプレックスの力動論

③ 精神療法のトレーニングメソッドの開発とシステム化

④ 応用

- 1) 精神療法理論の教育現場への応用 2) 精神療法理論の看護技法への応用
3) 精神療法理論の企業内人事マネジメントへの応用

学会発表等

- ① 日本心理臨床学会第9回大会 主幹京都大学 (於 同志社大学)1991, 9, 13~15.
a) 研究発表「シゾイドトリートからの脱却とエディプスコンプレックスの徹底操作」
b) 座長・指定討論者 事例研究発表
- ② 日本集団精神療法学会第9回大会 (於 国際基督教大学)1992, 4, 18~19.
a) 会長講演「個人力動と集団力動の関係: '90年代の集団精神療法」
b) 研究発表「モザイクメイトリシングの集団力動展開の意味と技法構成」

論文・著作

① 単著

- 「精神分裂病の集団精神療法: Kanas論文へのコメント」 集団精神療法1992 Vol.8 (1), 93-96.

② 共著

- 「集団療法」(巖谷秀章、井上直子と共著)岡堂哲雄編 『臨床心理面接ハンドブ

ック』垣内出版 1992, 249-266.

講演等

- ① 講評 湘南病院年次研究発表会 守山市 1991,10,20.
- ② 日本集団精神療学会研修会 集団精神療法技法ワークショップ「小集団の力動的集団精神療法の基礎」担当 東京都中部総合精神保健センター 1991,11,16-17.
- ③ 講義「臨床人格理論」 1991,11,19.
事例研究指導「人格理論を適用した事例研究法」 1991,11,22.
査定面接技法実地指導 1991, 11,21,26,30, 12,3.
家庭裁判所調査官研修所
- ④ 公開実技指導「精神分裂病者の集団精神療法」 国立療養所 悠久荘 長岡市 1992,1,14.
- ⑤ 公開事例研究指導 第22回家庭裁判所調査官カウンセリング研究会全体会 東京都 1992,1,25.
- ⑥ 講演「集団精神療法の意義と技法の実際」 ルーテル神学大学 1991,3,2.
- ⑦ シンポジスト「21世紀の心理学」 日本学術会議 1992,3,23.
- ⑧ 講師 日本臨床心理士認定協会ワークショップ 静岡市 1992, 5,23~24.
- ⑨ シンポジスト「心理学的立場からみた里帰り分娩」(於)シンポジウム「里帰り分娩の新しい問題」 第12回茨城県母性衛生学会総会 水戸市 1992, 5,30.
- ⑩ 講師 「ロールプレイ技法」 東京都多摩教育研究所 1992, 7,6.
- ⑪ 集中講義「臨床心理学」 広島大学学校教育学部 1992, 7,13~16.
- ⑫ 講演「集団指導の新しい方向」 広島市児童総合相談センター 1992, 7,16.
- ⑬ ワークショップオーガナイザー 「個別性を重視した教育指導」広島県教育委員会 1992, 7,28~31.
- ⑭ 講演「子供の心を育てる教育」 全国カトリック学校教育研修会 横浜市, 1992,8,7.
- ⑮ オーガナイザー ワークショップ「たこてんワールド」(集中活動集団精神療法ワークショップ) 菅平 1992, 8,21~24.

学会・研究団体・審議会等における委員・役職

- ① 日本集団精神療学会 常任理事 1986, 4.~現在
- ② 日本集団精神療学会 学会誌「集団精神療法」編集委員 1986. 4.~現在
- ③ 日本集団精神療学会 研修委員会 委員 1987~現在
- ④ 日本集団精神療学会 渉外委員会 委員長 1988, 1~現在
- ⑤ 日本集団精神療学会 第9回大会 会長 1991, 2~1992, 4.

ディヴィッド W. ラッカム 準教授

Research Activities

- ① D.W. Rackham with Y. Kuriyama — Explorations of decision-making strategies in a cross-cultural context using a modified version of the Prisoner's Dilemma Game.
- ② D.W. Rackham — Pavlovian discriminative conditioning in the black bass, Micropterus salmoides and the three-spined stickleback, Gasterosteus aculeatus.
- ③ D.W. Rackham with M.W. Steele — Historical and psychological dimensions of environmental consciousness.
- ④ D.W. Rackham — Psychology's historical debt to Christianity.

Conference Attendances:

- ① Annual Meeting of the Japanese Psychological Association, Sendai, JAPAN, October, 1991.
- ② Neurolinguistics Conference, ICU, November, 1991.
- ③ Annual Meeting of the Japan Group Psychotherapy Association, International Christian University, April, 1992.
- ④ Multilingualism and Cultural Diversity in Japan, International Christian University, May, 1992.
- ⑤ General Education Committee Symposium on Global Education, International Christian University, July, 1992.
- ⑥ Psychology Summer Seminar, Hachioji, JAPAN, July, 1992.
- ⑦ Meeting with the Pro-Vice-Chancellor/Principal of the University of the West Indies regarding exchange arrangement with International Christian University, Trinidad and Tobago, WEST INDIES, August, 1992.

Publications

- ① Rackham, D.W. (1992). Discriminative courtship conditioning in the pigeon, Columa livia. Educational Studies, 34.
- ② Rackham, D.W. (1991). Science, humanism, and psychology's historical debt to Christianity. Prepared for Volume 35 of *Educational studies*.

Other Activities

- ① English language proof-reading services for Japanese Psychological Association

publications and ICU colleagues.

- ② Member, Board of Trustees, American School in Japan (ASIJ)
- ③ Subscription and circulation services on behalf of The Japan Christian Quarterly
- ④ Leader, weekly adult class, West Tokyo Union Church
 - － A variety of ongoing activities of an educational and service nature in connection with missionary associate/overseas personnel status with the United Church of Canada and the United Church of Christ in Japan (Kyodan).

向井 敦子 講師

研究活動

- ① 作文及び算数における自発的発見学習を促進する心理学的工作の実践
- ② 対人過程における心理学的意味の規程因の考察

学会発表

- ① 文章産出過程における視点変換 日本教育心理学会第33回総会発表論文集 p.595-596, (於 上越教育大学, 同発表部門の座長をつとめた。) 1991.9.21-23
- ② LOGO学習過程にみられる自発的発見学習 日本教材学会第3回大会 (於 東京成徳短期大学) 1991.11.30
- ③ 序数理解における基点の抽出と視点変換 日本発達心理学会第3回大会発表論文集 p.230 (於 兵庫教育大学) 1992.3.27-29

著 作

- ① 深谷澄男・向井敦子(1990) 自己過程および対人過程の循環的調整モデル 心理学評論 Vol.33, No.4, 460-483 (1991年9月発行)

<視聴覚教育研究室>

1. 人の動き

和田正人, 飯吉透, 飛田ルミ, 川本佳代, 海後宗男, 大野春見, 金城尚美, 柴田協

子、高橋直子、萩原順子、渡辺功、石川勝博が1992年4月より副手に就任した。

また、次の副手が辞任した。

工藤嘉名子（92／3 辞任）は1992年4月ミネソタ州立大学機構秋田校日本語科講師に就任。

南雲弥恵子（92／3 辞任）は1992年4月麗澤大学別科日本語非常勤講師として就任。

藤本泉（92／3 辞任）は1992年9月国際基督教大学日本語教育プログラム非常勤助手に就任。

2. 研究活動

（1）教育工学関連学協会連合第3回全国大会（第28回日本視聴覚教育学会・第36回日本放送教育学会大会）

本研究室に事務局を置く日本視聴覚教育学会及び日本放送教育学会が加わり教育工学関連学協会連合第3回全国大会が、大阪大学を当番校とし、1991年11月2、3、4日の3日間にわたり開催された。シンポジウム及び課題研究は次のようなテーマで行なわれ、阿久津教授、中野教授、石本教授および大学院生が参加した。

○シンポジウム：「人と森林による学習と指導」「経験と認識」

○課題研究は以下のグループに分れて行われた。「放送・視聴覚教育」「教育方法（1）（2）」「教師教育」「学習環境（1）（2）」「コンピュータ利用教育（1）（2）」「授業研究（1）（2）」「企業内教育」「情報教育」

（2）共同研究

飯吉透、飛田ルミ、川本佳代、SENSATIEN ADISAK、金城尚美、加藤由香里、池田伸子は、日本視聴覚教育協会が受けた昭和63年度より文部省補助金による「マルチメディア等の教育利用に関する開発研究—ハイパーメディア教材の自作—」（座長：中野照海）に参加し、ハイパーメディア教材の開発を継続して行なっている。

飯吉透、飛田ルミ、川本佳代、SENSATIEN ADISAKは、中野教授、石本教授とともに文部省科学研究費総合研究Aとして「融合型マルチメディアの教育利用に関する研究」（代表：高桑康雄）に参加し、マルチメディア教材の開発を行なっている。

飯吉透、工藤嘉名子、飛田ルミ、藤本泉、保坂敏子は、文部省助成による「ニューメディア教材研究開発事業」（座長：中野照海）に参加し、ハイパーメディア教材の開発・評価や文献の収集を継続して行なっている。

和田正人、佐々木輝美（獨協大学）、阿久津教授は「テレビ番組別の接触行動に関する研究」および「テレビ暴力番組の類型化に関する研究」を行なっている。

(3) 博士・修士論文発表会

博士前期・後期課程修了者(1992年3月)による博士・修士論文発表会を1992年3月17日に行なった。

(博士論文)

佐々木輝美 「テレビ暴力番組の類型化に関する実証的研究」

(修士論文)

工藤嘉名子 「日本語の読解における要約訓練の効果に関する実証的研究」

飛田 ルミ 「外国語学習の読解におけるメタ認知学習方略の適用に関する実験的研究」

南雲弥恵子 「コンピュータを用いた日本語の読解学習における背景的知識の提示の効果に関する実証的研究」

藤本 泉 「ハイパーメディアによる外国語教材におけるユーザー設定に関する実証的研究」

海後 宗男 「マスメディア報道源に対する信頼度と接触量が現実の社会的構築に及ぼす影響に関する実証的研究」(1992年6月修了のため発表会未定)

中野 照海 教授

研究活動

- ① ニューメディア教材の研究開発事業(文部省教育改革の推進に関する研究依託・日本視聴覚教育協会, 第2年次3ヵ年計画 第2年度研究助成, 座長)
- ② 視聴覚教育メディア研修マニュアル・ビデオの開発(文部省依託研究・主査)
- ③ トルコ厚生省コミュニケーション・センターの運営に関わる基礎調査—I E C 調査を中心にして(第4年次, 国際協力事業団によるプロジェクト)
- ④ 幼児番組国際版マニュアル作成(放送文化基金助成, NHK・フジTVとの共同研究, 共同研究者)
- ⑤ 学部教育教材の制作と評価分析(文部省科学研究費助成, 放送教育開発センター研究プロジェクト, 共同研究者)
- ⑥ 教育メディアの発達史編纂(文部省科学研究費助成, 放送教育開発センター研究プロジェクト, 共同研究者)
- ⑦ 「ハイパーメディアの開発と学習実験」(文部省科学研究費助成総合A—共同研究

者)

- ⑧「ハイパーメディア『人と森林』による学習・指導に関する研究」(放送文化基金研究助成—共同研究者)

上記は研究助成を得て行なっているものであるが、その他に視聴覚教育の評価の問題、画像コミュニケーションの基礎的研究、授業のモデルの問題、「視聴覚教育メディア研修カリキュラム手引書の作成」(文部省教育メディア部会)などの研究活動を継続中である。

学会発表等

- ①「ハイパーメディア教材利用学習における学習の機制に関する実証的研究」(飯吉透と連名)第6回日本教育工学会大会, 大阪大学, 1991年9月29~30日。
- ②“Audiovisual Methods and Technique in IEC for Population Education,” The Turkey and Japan Joint Seminar on Population Education, Bolu, Turkey, Jul. 28~29, 1991.

著 作

- ①「研究の背景と目的」『ハイパーメディア「サイエンス・ハイパーキューブ」試行としてのメディア・ミックス教材の開発—第3年次報告書』日本視聴覚教育協会 1991年, pp.6-18.
- ②「研究の総括と展望」『ハイパーメディア「サイエンス・ハイパーキューブ」試行としてのメディア・ミックス教材の開発—第3年次報告書』日本視聴覚教育協会 1991年, pp.115-120.
- ③「ハイパーメディアの構造と構成主義学習理論—ハイパー・サイエンス・キューブの開発から—」『視聴覚教育』7月号 pp.24-27, 1992年.
- ④ビデオマニュアル(監修)『ハイパーメディアの拓く新しい教育』(20分)日本視聴覚教育協会・パイオニアLDC 1991年.

(エッセー)

- ①「機器の教育的潜在性を拓く—長期的展望と条件整備—」『視聴覚教育』9月号 pp.42-43, 1991年.
- ②「人びとの影響—視聴覚教材と人との組み合わせ—」『視聴覚教育』10月号 pp.42-43, 1991年.
- ③「画像の教育効果—高次知的過程への挑戦—」『視聴覚教育』11月号 pp.42-43, 1991年.
- ④「学会連合大会の長短—統合と分散のバランス—」『視聴覚教育』12月号 pp.42-43,

1991年.

- ⑤「国境を越える教育番組—日本賞教育番組コンクールから—」『視聴覚教育』1月号 pp.44-45, 1992年.
- ⑥「鳩の学習から人の学習へ—教育工学の流れの中で—」『視聴覚教育』2月号 pp.46-47, 1992年.
- ⑦「新たな教育メディアに対する姿勢—メディアからの思考を越えて—」『視聴覚教育』3月号 pp.46-47, 1992年.
- ⑧「言語と宗教とを越えて—教育ソフト開発国際協力セミナーから—」『視聴覚教育』4月号 pp.44-45, 1992年.
- ⑨「ヴァーチャル・リアリティー—本物よりも本物らしい—」『視聴覚教育』5月号 pp.40-41, 1992年.
- ⑩「画像研究復権への示唆—波多野完治先生のお仕事—」『視聴覚教育』6月号 pp.40-41, 1992年.
- ⑪「混沌としたメディア—ハイパーメディアの面白さ—」『視聴覚教育』7月号 pp.52-53, 1992年.
- ⑫「規格化と個別化—マニュアル効用の両面—」『視聴覚教育』8月号 pp.40-41, 1992年.

その他

- ① 日本視聴覚教育学会理事, 学会誌『視聴覚教育研究』編集委員
- ② 日本放送教育学会理事, 学会誌『放送教育研究』編集委員長
- ③ 日本教育工学会理事, 運営委員, 広報委員, 論文賞委員会委員, 研究奨励賞委員会委員, 研究奨励賞小委員会主査, 学会誌『日本教育工学雑誌』編集委員
- ④ 文部省生涯学習審議会特別委員
- ⑤ 文部省生涯学習審議会社会通信教育部会委員
- ⑥ 文部省生涯教育審議会教育メディア部会長代理
- ⑦ 文部省社会教育分科審議会教育メディア部会視聴覚教育研修計画小委員会委員
- ⑧ 国立民族学博物館情報システム検討委員会委員
- ⑨ 国立放送教育開発センター客員教授
- ⑩ 国際協力事業団医療協力検討部会委員, トルコ検討部会座長, チュニジア検討部会座長
- ⑪ 国際協力事業団「開発と教育」援助検討委員会委員
- ⑫ NHK学校放送中央諮問委員会委員
- ⑬ 「視聴覚教育賞」(文部省・日本視聴覚教育協会)選考委員

- ⑭ 日本映画機械工業会・日本工業標準（JIS）新規原案作成委員会映写機等小委員会委員
- ⑮ 財団法人日本視聴覚教具連合会会長
- ⑯ 財団法人日本視聴覚教育協会理事
- ⑰ 教育ソフト開発国際協力会議代表

石 本 菅 生 教授

研究活動

- ① 日本語教育用C A Iシステム開発研究
- ② 大学における情報教育カリキュラムについての研究
- ③ 科研総合研究『融合型マルチメディアの教育利用に関する研究』（代表者：高桑康雄上智大学教授）に参加

著作等

- ① テレビニュースを素材とした日本語学習用コースウェアの効果
高木裕子、鈴木庸子他と共著、関西外国語大学留学生別科日本語教育論集1，1991
- ② テレビニュースを中心とした日本語学習用C A Iシステムの開発
鈴木庸子他と共著、国際交流基金日本語国際センター日本語教育論集『世界の日本語教育』，1992第2号

学会等

- ① 私立大学等情報教育連絡協議会平成4年度年次大会参加 1991年9月1～3日
私学会館
- ② 第6回日本教育工学関連協学会連合大会参加 1991年9月29～30日 大阪大学

その他

- ① 社団法人私立大学情報教育協会情報教育方法研究会委員
- ② 社団法人私立大学情報教育協会情報教育方法研究会運営委員会副委員長
- ③ 日本視聴覚教育学会理事
- ④ 日本放送教育学会理事
- ⑤ 日本教育工学会『日本教育工学雑誌』編集協力者

阿久津 喜弘 教授

研究活動

- ①「メディア行動」に関する研究
- ②「教育コミュニケーション研究」の体系化

学会発表

- ①「テレビ番組別の接触行動に関する研究（３）」（佐々木輝美・和田正人との共同研究）日本社会心理学会第32回大会（1991年10月12・13日，東京学芸大学）
- ②「テレビ暴力番組の類型化に関する研究（３）―利用と満足研究の応用」（佐々木輝美・和田正人との共同研究）日本教育社会学会第43回大会（1991年10月19-21日，筑波大学）

その他

- ① 日本視聴覚教育学会理事，編集委員
- ② 日本放送教育学会理事，編集委員
- ③ 日本教育社会学会評議員

和田 正人

研究活動

- ① マス・メディア接触モデルの研究
- ② メディアコミュニケーションの研究
- ③ 平和のための心理学者懇談会の活動

学会発表・参加

- ① 1991年9月，日本教育心理学会第33回総会（上越教育大学）参加
- ② 1991年10月，日本社会心理学会第32回大会（東京学芸大学）で「テレビ番組別の接触行動に関する研究（３）」を発表（阿久津喜弘，佐々木輝美（獨協大学）と共同研究）
- ③ 1991年10月，日本教育社会学会第43回大会（筑波大学）において，「テレビ暴力番組の類型化に関する研究（３）」を，阿久津教授，佐々木輝美（獨協大学）と共同発表
- ④ 1991年10月，日本マス・コミュニケーション学会秋期研究発表会（法政大学）参加
- ⑤ 1991年10月，日本心理学会第55回大会（仙台ガーデンパレス）参加

- ⑥ 1992年6月, 日本マス・コミュニケーション学会春期研究発表会(関西大学)参加

飯 吉 透

研究活動

- ① ハイパーメディア教材の設計・評価に関する研究
- ② ハイパーメディアによる学習に関する研究

学会発表

1991年11月, 教育工学関連学協会連合第3回全国大会において, ハイパーメディア教材「ハイパー・サイエンスキューブ」による学習実験Ⅰ—ハイパーメディアの個別利用と教育映画の集団利用における学習効果の比較—(中野照海と共同研究)を発表

飛 田 ル ミ

研究活動

外国語学習におけるメタ認知学習方略の適用に関する研究

川 本 佳 代

研究活動

- ① 教授・学習過程の研究
- ② ハイパーメディアによる学習の研究

学会発表・参加

1992年7月, 日本科学教育学会研究会第1回(横国大)に参加

金城 尚 美

研究活動

日本語の読解学習における効果的教授方略に関する研究

学会発表・参加

- ① 1991年11月, 日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」出席
- ② 1991年12月, 第1回日本語教育セミナー参加
- ③ 1992年5月, 日本語教育学会大会参加(東外大)

萩原 順 子

研究活動

- ① 日本語読解学習における効果的方略
- ② 日本語初級学習者における聴解試験作成
- ③ 日本語学習者の適用する学習ストラテジー

学会参加

- ① 1992年5月, 日本認知科学会第9回大会参加(中京大学)
- ② 1992年5月, 日本語教育学会大会参加(東外大)
- ③ 1992年6月, 第1回小出記念日本語教育研究会参加(ICU)
- ④ 1992年8月, 科学教育学会第16回年会参加(上越教育大学)

著 作

「心像と記憶一対連合学習の場合一」『日本語研究所紀要』(財)国際教育振興会日米
会話学院日本語研究所 3月号1992年 pp.23-35.

〈英語教育研究室 (English Teaching Department)〉

The year September 1991 to August 1992 was characterized by a substantial number of personnel absences owing to sabbatical leave. Professor Eichi Kobayashi from April 1991–March 1992, Professor Randy Thrasher from September 91–August 92 and Associate Professor John Maher December 91–September 92. Professor Peter McCagg is on leave from the Autumn Term 1992 until the same time 1993.

小林 栄智 教授

研究・著作活動

1992年度は高等学校の新英語教科書の作製にかなりの時間をつかった。これまで(1992年9月末日現在)に文部省の検定済みになった『Why English I』, つぎの『Why English II』および『Readings in English』の2冊もわれわれ編修委員の手をはなれ, 検定に提出できるよう準備がすすめられている段階である。最後の『Writing in English』の作業はこれからである。

もう一つの時間と精力のかかる仕事は『和英辞典(初版1976年11月)』の全面改定・増補である。自分の分担分の80パーセントは印刷にまわっているところである。そのブルーフ, および追加項目の執筆の仕事が大量にまだ残っている。辞書作りはジョンソン博士ではないが本当に“a harmless drudge”になり切らないとできない仕事であるとしみじみ感じる昨今である。

以上のようなわけで, 「古英語散文の語り研究」や「The Old English Version of Apollonius of TyreとHistoria Apollonii Regis Tyriとの比較研究」もなかなかはかどらないでいる。

学会参加

- ① 日本中世英語英文学会
- ② 全国英語教育福岡研究大会

その他

- ① 日本中世英語英文学会, 評議員, 1983—現在
- ② 日本英語学会, 評議員, 1987—現在

ランドルフ H. スラッシャー 教授

Presentations

- ① Self-evaluation in English Language Teaching 1992 YMCA Teachers'Seminar
- ② The Evaluation of Company Employee's English Proficiency
International Language Centre Testing Seminar

Present research topics

Item Response Theory

Research related travel

During my leave I was able to attend the Association of Language Testing meeting in Vancouver B.C. and meet with people in the field in the U.K. Work continued on a draft of a basic text for language testing.

ジョン クリストファー マーハ 準教授

Research Articles 1991 – 1992

- ① “Language and the Professions” (with Denise Rokosz), R.Kaplan and W.Graabe (Eds.) *Introduction to Applied Linguistics* New York: Addison Wesley. pp.221–250. 1991.
- ② Bilingualism in Britain: Looking Back and Looking Forward. In *Minority Groups Today*.(Ed. Saito), Tokyo: RAIK.1991. pp.18–29.
- ③ Talking to Adolescents. *Language Sciences* Vol.12, 1991. pp.9–24.
- ④ (with Ikuko Yuasa). Boundaries, Bilingualism and Ethnocentrism: The Case of Erika. *Gengo (Language)*. Volume 20, No.8, 1991, pp.28–35.
- ⑤ North Kyuushu Creole: A Hypothesis concerning the Multilingual Formation of Japanese, *International Christian University Library Open Lectures* 1991, April, pp. 14–48.
- ⑥ Hashigaki.(in *Nihon no Bairingarizumu*.1991).pp.iii–vi.
- ⑦ What is Bilingualism? (with K.Yashiro), *Nihon no Bairingarizumu*. (Maher and Yashiro eds.) Tokyo: Kenkyusha, 1991. pp.1–11.
- ⑧ Bilingualism in the Media, *Nihon no Bairingarizumu*. (Maher and Yashiro eds.) To-

kyo: Kenkyusha, 1991. pp.17–29.

- ⑨ International Languages of Science, *Nihon no Bairingarizumu*. (Maher and Yashiro eds.) Tokyo: Kenkyusha, 1991. pp.35–67.
- ⑩ The Revival of Ainu, *Nihon no Bairingarizumu*. (Maher and Yashiro eds.) Tokyo : Kenkyusha, 1991. pp.149–169.
- ⑪ Atogaki. Endpiece, *Nihon no Bairingarizumu*. (Maher and Yashiro eds.) Tokyo: Kenkyusha, 1991. pp.211–212.
- ⑫ Review: Eloquence and Power: Language Standards and Language Standardization. Earl Joseph, in *Language Sciences* 1991.24,1.

Books

- ① *International Medical Communication*. Michigan University Press. 1991.
- ② *Nihon no Bairingarizumu* [Bilingualism in Japan]. (with Kyoko Yashiro ed). (In Japanese). Tokyo: Kenkyusha. 1991.

Research Presentations 1991 – 1992

- ① “New Psychoanalytic Approaches: Freud and Multilingualism”. Japan Psychoanalytic Association. Annual Meeting. Invited Paper for Symposium: New Approaches to Freud. Keio University, October 1991.
- ② “Korean Language Maintenance in Osaka: A Study in Ikuno-ku.” Pan-Asian Linguistics Conference. Chulalongkorn University, Bangkok. January 1992.
- ③ “Language Policy, Language Maintenance”. British Council Lecture. San Pedro University, Mindanao, Philippines. February, 1992.
- ④ “The Study of Medicine and the Place of Language”. British Council Lecture. Manila, Philippines. March, 1992.

Consultancies

- ① British Council Report. “Language, and Training in Higher Education in the Philippines: English and Philippino.” February, 1992.

Broadcasts

- ① NHK. Channel 1. News Centre. Interview. “Apologizing in Japanese”. February 1992.
- ② NBC. Interview. “Saying Sorry. Do they really mean what they say?” March 1992.

- ③ CNN.Interview. “When the Japanese say ‘Sorry’” April 1992.

Recent Research Topics

- ① Bilingualism
- ② Ainu and Korean Language Maintenance in Japan
- ③ Multilingualism and Language Planning in Japan
- ④ Language Policy in the Philippines
- ⑤ Language and Psychoanalysis
- ⑥ The Origins of the Japanese Language

鬼頭 當子 研究員

研究活動

「国際基督教大学院修士論文に掲載された参考文献から見た、研究用資料の傾向と
 本学図書館蔵書の構築の状況、図書館間相互協力の実情分析」に対して私立大学図書
 館協会助成金1990年度を（鬼頭當子、黒沢公人）受け、1991年8月1日、私立大学図
 書館協会第52回総大会研究会に於て発表同学会会報no.99（1991年12月）pp.80-93に
 掲載

その他

- ① 日本図書館協会100周年記念事業委員会委員
- ② 大学図書館研究集会運営委員会実行委員会委員
- ③ 日本図書館協会優秀図書館建築審査委員会委員
- ④ 日本図書館協会大学部会委員

Pius Y. Ng'wandu 研究員

Given the scale of my activities and responsibilities during this period, I have mainly concentrated on the collection and analysis of documentary data related to education and training in both Japan and Tanzania. I have focused my interest on examining the role of education (particularly the role of basic education) in national development.

I have attempted to trace the different educational reforms in both countries as

these coincide or correlate with major socio-economic transformations. I am now at the stage of preliminary data analysis where I am able to present albeit a descriptive paper on Tanzania's education system. According to my schedule by March 1993, I should be able to conclude my research paper in the form and quality as desired.

塚 本 美 恵 子 研究員

研究活動

異文化コミュニケーションについての研究を始めた。

学会参加

1991.12.14 文化と人間の会研究会参加

1992. 6.13 同 上

5.14, 15 異文化間教育学会13回大会参加

6.27, 28 日本比較教育学会参加

著 作

大人にとっても異文化適応「異文化間関係学の現在」金子書房, 星野命 編

そ の 他

駿河台大学・杏林大学・YWCAにて非常勤講師

川 津 茂 生 助手

研究活動

- ① 対称図形の知覚に関する実験的研究
- ② 視覚的探索における非対称性（いわゆる探索非対称性）に関する実験的研究
- ③ 探索非対称性と類似性判断における非対称性の関係に関する理論的・実験的研究
- ④ 視覚的探索における個人差とストラテジーに関する実験的研究
- ⑤ 認知心理学における“Representation”の定義に関する研究

学会参加・発表

- ① 日本心理学会第55回大会参加，1991年10月29～30日，仙台
- ② 日本基礎心理学会参加，1992年5月1～2日，専修大学，東京
- ③ 日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル研究分科会」参加，1991年12月14日，上智大学
- ④ 日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル研究分科会」参加，1992年6月20日，上智大学
- ⑤ 視覚探索研究会第4回参加，1991年10月29日，仙台
- ⑥ 視覚探索研究会第5回参加，1991年12月14日，東京大学生産技術研究所
- ⑦ 視覚探索研究会第6回参加，1992年3月13～15日，蔵王（山形）
- ⑧ 視覚探索研究会第7回参加，1992年5月2日，東京大学生産技術研究所
- ⑨ 視覚探索研究会第8回参加，1992年6月20日，東京大学生産技術研究所
- ⑩ 視覚探索研究会第9回参加，1992年8月5～7日，信州安曇野
（以上の視覚探索研究会で，主に文献に関する報告をした）

論文・著作

- ① “Dissociability of color and location in the perception of symmetry”(1992) Japanese Journal of Psychonomic Science, 10, 91-98.
- ② 「探索非対称性」(1992) 数理科学7月号, 71-75.
- ③ “A theoretical note on the relationship between search asymmetry and asymmetry in similarity judgments” (Manuscript submitted for publication in Educational Studies, vol.35)
- ④ Kawazu, S. & Yokosawa, K. “Search asymmetry between the searches for symmetry and for asymmetry” (Manuscript submitted for publication)

Ⅲ 大学院教育学研究科修士論文

1992年3月卒業者

A. 教育哲学

1. 佐藤 清文 デューイの芸術論をめぐって「経験としての芸術」における
カントの「判断力批判」への批判を通じた教育学的パースペ
クティヴ

B. 教育心理学

2. 野村 学 精神分析的精神療法における「自由連想的発言」の形成・展
開過程モデル
3. 足立 実絵 向社会行動の発達における共感性及び向社会的道徳判断の媒
介的役割
—幼児期から児童期にかけての発達の視点からの考察—
4. 水上 雅敏 精神分裂病者の身体図式発達過程における過去の自己心象の
意義についての考察
5. 森井ひろみ P F スタディ 青年用における図版への反応と場面認知
6. 西村 馨 ナルシズム発達における前思春期児童の仲間との理想化自己
対象関係に関する一研究
7. 柘植 道子 来談者中心療法の治療過程初期における危機的時点の一研究
—心理治療過程尺度と心理治療体験目録の観点から—

C. 視聴覚教育法

8. 飛田 ルミ 外国語学習の読解におけるメタ認知学習方略の適用に関する
実験的研究
9. 工藤嘉名子 日本語の読解における要約訓練の効果に関する実証的研究
10. 藤本 泉 ハイパーメディアによる外国語教材におけるユーザー設定に
関する実験的研究
11. 南雲弥恵子 コンピュータを用いた日本語の聴解学習における予備知識の
提示の効果に関する実証的研究

D. 英語教育法

12. 岡崎 晶子 Discourse Analysis of the Conversations between a Doctor and Three Schizophrenic Patients
13. 齋藤 寿美 An empirical study of the relationship between teacher feedback and students performance in EFL composition
14. 鈴木 敬了 A Study of Word Order in Old English

1992年6月卒業者

A. 教育哲学

1. ヘデニック シルビア A STUDY OF HOKKAIDOU KATEI GAKKOU'S EDUCATIONAL PRINCIPLES
—THE SIGNIFICANCE OF CHRISTIANITY, FAMILY-SYSTEM AND WORK—

B. 視聴覚教育

2. 海後 宗男 An Empirical Study on the Social Construction of Reality by Mass Media News Source Credibility and Exposure

C. 英語教育法

3. 新井 慶子 A Study of Cohesion in Japanese: a contrastive Analysis between Japanese & English
4. 梅沢 薫 A Study on "Returnee accent" as a variety of Japanese
5. 福島 和子 A Neurolinguistic Interpretation of Agaammatism
6. 永野 真司 Listening problems of Japanese junior high school students as inferred from analysis of dictation errors
7. 臼井 直人 Debate in English Language Teaching in Japan: A Theoretical Model for Schools

IV. 大学院教育学研究科博士論文

1992年3月卒業者

A. 教育哲学

1. 影山礼子（和子）成瀬仁蔵の教育思想
— 成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育 —
2. 大川 洋
エラスムスの「子どもの教育について」（1529年）の成立に関する研究

B. 視聴覚教育

3. 佐々木輝美
テレビ暴力番組の類型化に関する実証的研究

C. 英語教育法

4. 多田 洋子
Parameter Re-setting in Foreign Language Learning
— With Special Focus on the Head-initial/Head-final Parameter —

V. 教育実習報告

1. 教育実習報告

1992年度には60名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1) 実習生総数 60名

男 子 14名
女 子 46名

2) 実習日程及び実習校

5月11日～5月23日 浜松市立天竜中学校（静岡）
5月18日～5月30日 北海道立札幌月寒高等学校
5月25日～6月6日 筑波大学附属盲学校（東京）、敬和学園高等学校（新潟）

- 6月1日～6月13日 杉並区立西宮中学校，三鷹市立第六中学校，狛江市立第三中学校，府中市立第四中学校，国際基督教大学高等学校，啓明学園（東京），神奈川県立生田高等学校，横浜市立左近山中学校（神奈川），埼玉県立川越高等学校，日高市立高根中学校（埼玉），千葉県立津田沼高等学校，山形県立鶴岡南高等学校，北上市立南中学校（岩手），西宮市立西宮高等学校（兵庫）京都府立綾部高等学校，同志社高等学校（京都），愛媛県立宇和島東高等学校，愛媛県立松山東高等学校，広島女学院中学高等学校（広島）
- 6月2日～6月16日 山梨県立甲府南高等学校，広島大学附属福山中学高等学校
- 6月5日～6月18日 立教高等学校（埼玉）
- 6月8日～6月20日 練馬区立関中学校，三鷹市立第七中学校，東大和市立第一中学校，多摩市立貝取中学校，都立小石川高等学校，明治学院東村山高等学校（東京），相模原市立大野南中学校（神奈川），所沢市立小手指中学校（埼玉），竜ヶ崎市立長山中学校（茨城），愛知県立昭和高等学校，愛知県立西尾高等学校，愛知県立千種高等学校
- 6月10日～6月23日 都立日比谷高等学校
- 6月15日～6月27日 岐阜県立大垣北高等学校，金蘭千里中学校（大阪）
- 6月17日～6月30日 岐阜県立岐阜高等学校
- 6月22日～7月4日 神奈川県立外語短期大学附属高等学校，宮城県立第二女子高等学校，高森町立高森中学校（長野）
- 8月24日～9月5日 宮城学院中学高等学校（宮城）
- 9月1日～9月14日 静岡県立磐田南高等学校，静岡県立静岡高等学校
- 9月13日～9月27日 広島三育学院高等学校（広島）
- 9月21日～10月3日 柏市立光ヶ丘中学校（千葉）
- 10月6日～10月21日 広島大学附属福山中学高等学校
- 10月12日～10月24日 高梁市立高梁中学校（岡山），福岡県立小倉商業高等学校
- 10月18日～10月31日 西南女学院高等学校（福岡）
- 11月2日～11月14日 国際基督教大学高等学校（東京）

3) 実習参加学生学科別内訳

学科 \ 性別	男	女	計
人 文 学 科	1	11	12
社 会 学 科	4	4	8
理 学 科	1	3	4
語 学 科	2	15	17
教 育 学 科	5	13	18
教育学研究科	0	0	0
行政学研究科	0	0	0
理学研究科	0	0	0
科目等履修生	1	0	1
合 計	14	46	60

※1992年4月より「教職聴講」制度は廃止され「科目等履修生」制度に包括された

4) 実習生教科別内訳

教科 \ 性別	男	女	計
社 会	6	4	10
理 科	0	3	3
数 学	1	0	1
英 語	7	39	46
宗 教	0	0	0
合 計	14	46	60

2. 教員免許状取得状況報告

1992年3月卒業生442名（学部397名，大学院45名）の内，一括申請により教員免許状を取得した学生は次のとおりである。

1) 教養学部学科別教免取得学生数（聴講生は除く）

学科 \ 種別	取得者実数	中一種	高一種
人 文 学 科 科	7	6	7
社 会 学 科 科	13	10	13
理 学 科	10	6	10
語 学 科	26	21	26
教 育 学 科	13	13	13
合 計	69	56	69

2) 教養学部教科別教免取得学生数（聴講生は除く）

学科 \ 教科 種別	社会		理科		数学		英語		宗教	
	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一
人 文 学 科 科							6	7		
社 会 学 科 科	10	12					0	1		
理 学 科			4	6	2	4	0	0		
語 学 科							21	26		
教 育 学 科							13	13		

3) 大学院教免取得生数

研究科 専攻科		種別	中一	高一	中専	高専
教育学研究科	教育哲学専攻					
	教育心理学専攻					
	英語教育専攻				3	4
	視聴覚教育専攻				1	
行政学研究科	行政学専攻				2	2
比較文化研究科	比較文化専攻					
理学研究科	基礎理学専攻				2	2

※中・高一種免許状取得者は院在籍聴講による